

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	2277100927		
法人名	社会福祉法人峰栄会		
事業所名	さぎの宮グループホーム		
所在地	静岡県浜松市東区小池町38番地の1		
自己評価作成日	平成 30年 3月 16 日	評価結果市町村受理日	平成 30年 5月 25 日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigo-kouhyo-shizuoka.jp/kaigosip/Top.do">http://www.kaigo-kouhyo-shizuoka.jp/kaigosip/Top.do</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	一般社団法人静岡県介護福祉士会
所在地	静岡県静岡市葵区駿府町1-70 静岡県総合社会福祉会館4階
訪問調査日	平成 30年 3月 29日

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

事業所の方針である「共に生きる」「個性性」「自尊心を保ち社会性を回復する」「地域に根差した施設」と、「入居者主体の生活の提供」「日々のケアの積み重ね」のモットーを日々念頭に置き、入居者一人一人が自分らしく生活できるよう、個々にあったケアを目指しています。また、感謝の気持ちを大切にし、毎日入居者の方に「ありがとうございます」の言葉をたくさん伝えるようにしています。全国でも珍しい特養併設型であり、4階に位置している為、天気の良い日には富士山が眺められます。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

入居者主体の生活をいつも考えており、入居者の部屋も自由に自分の好きな物が置かれており、整理整頓がされている。入居者が共同して製作した作品は、目にしやすいグループホームの玄関に展示されている。食堂兼居間は、大きな窓から光が差し込みさりげなく物品が置かれ、落ち着いた居心地の良い空間になっている。屋上には花壇や畑があり、四季折々の野菜を育てたり、花を咲かせている。一つだけの独立した施設ではなく、複合施設の一隅にあるため、職員による協力体制が確立されている。施設全体が連携して運営されており、絆で結ばれている。施設の4階に位置し、冬の天気の良い日には富士山が望め、風光明媚な景色に恵まれている。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	基本方針に「地域に根差した施設」と掲げ、共有している。日々の買物を通して、自然に地域と関わり、地域に認知して頂ける施設となるよう努めている。	年度初めに理念に基づいた目標を毎年設定し、日々実践に努めている。法人全体で目標管理シートを活用して理念の具現化を図っている。目標を毎月振り返り、管理者と面接して次月に繋げている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事である納涼祭に出向いたり、会館まつりへ作品の出展をし、地域の方と交流をしている。浜松まつりや地域の祭り時には、地域の方に来て頂いて休憩の場として開放している。	地域から行事のチラシを貰い積極的に参加をしている。浜松祭りでは施設が開放され休憩場所ともなっている。小池町会館祭りに出品したり買い物時挨拶したりと日常的に交流し、地域の一員として認知されている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域包括支援センター主催の介護者教室にて、認知症についての講義をさせて頂き、地域に向けて認知症への理解と対応方法を伝えた。また、運営推進会議内で、事例研究の取り組みを伝えている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、入居者の日常の様子、事例研究発表や事故報告等について行い、普段の取り組みや起こったことを隠さずに伝え、意見を頂けるよう努めている。	入居者、家族、自治会長、民生委員、地域包括支援センター、行政の参加で行われる運営会議では、包み隠さず現状や事例発表会での報告をしている。映像で普段の取り組み状況が理解されるよう努めている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	区役所の担当者に、運営推進会議に出席して頂き、事業所内の様子を報告している。	市町担当者には運営会議に出席してもらい、欠席の場合は報告書を送っている。市町には地域の人と密着している現状を理解してもらっている。事故等の報告も適切に行い関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束ゼロ宣言をしている。施設内に身体拘束廃止委員会があり、毎月の課題に取り組んでおり、1年を通して身体拘束の手引が学習できる取り組みとなっている。	施設内の全部署に身体拘束廃止委員会が設けてある。「施設の手引き」を使用することで、職員一人ひとりが手引きに従い実践・体験を通して学習をしその評価をしている。言葉遣いなどにも気を配っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	施設内に虐待防止委員会がある。年2回、虐待防止チェックリストを全職員が行い、日頃の入居者への対応を振り返っている。また、全体会議で虐待の研修もあり、学ぶ機会がある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	全体会議にて、権利擁護について学ぶ機会がある。また、利用者の中には、日常生活自立支援事業を活用していた入居者がいた。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前には必ず見学に来て頂き、実際の様子を観て頂いている。契約時には、十分サービスの説明を行っている。今年は、居室料と食費の料金を変更している為、家族会にて説明を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議に入居者家族が参加して頂けるよう毎回案内を送っている。また、入居者に会議に参加して頂き、意見が表せるように努めている。家族会を開催し、意見・要望を頂けるよう努めている。	利用者の様子を毎回伝えながら話しやすい雰囲気や信頼関係を築いている。行事を事前に通知することで家族の参加人数が増え県外からの参加もみられる。年1回はアンケートをお願いし広く要望を聞くように努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎日の申し送り時、気になることがあれば意見交換を行っている。また、管理者と面接を行い、職員の意見を聞く機会を設けている。	目標シートを毎月振り返り、管理者と共有・意見交換している。管理者が意見や要望を出しやすい雰囲気を作っている。意見提案は全員で検討し、反映できるように努めている。半年に1回個人面接を行っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	目標管理シートがあり、1年を通して職員個人が目標をもって働けるようになっている。また、勤続年数により表彰もある。休憩中には、コーヒーやお菓子が食べられるカフェコーナーの場所もある。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内で目標管理シートや毎月の行動達成記録、人事考課制度や新人・中堅職員研修があり、職員を育てる仕組みができています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内での全体会議にて、交流する機会がある。また、法人内で開催している自主勉強会や勉強会にて交流する機会が設けられている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居者の話をよく聞き、安心して入居して頂けるように関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に話を聞き、安心して利用して頂けるように関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人の経歴や家族の話を参考にその時最も適したサービスを提供できるように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	事業所の方針で「共に生きる」と掲げている。日々の生活の中で出来ないことに援助し、出来ることを一緒に行っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	行事には、家族に案内を送り行事への参加を呼び掛けている。また、家族会を開催している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居前に、家族に協力して頂き、生活史シートに馴染みの場所や人などを記入して頂き、把握に努めている。また、地域の行事に参加し、馴染みの人との関係が途切れないように努めている。	家族や知人の訪問を積極的に迎え入れ、地域の行事に参加し関係が途切れないようにしている。入居前に家族から生活史、人間関係、行きつけの場所、生活習慣の把握をして介護プランに反映させている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	関係性を配慮し、食堂の座席を配置している。また、入居者同士が楽しく話し合っている際は見守り、関係性を尊重している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	以前利用していた入居者の御家族が、現在でも運営推進会議や行事へ参加して下さり、関係性を大切にしている。納涼祭では着付けをして頂いたり、畑での野菜作りに尽力を頂いている。		
<b>Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の会話を通じ、さりげない一言に本人の思いが表現されていることがある為、本人の言葉に耳を傾け、処遇につなげている。	日常会話のさりげない言葉の中に本音の希望や意向が話されている。本人の言葉をそのまま記録し、職員は本人の世界を認め安心した生活が送れるように把握しコミュニケーションを取るときも配慮している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居する際には、家族に生活史シートを記入して頂き、今までの暮らしを把握するよう努めている。また、居宅のケアマネより情報提供をして頂き、これまでのサービス利用の経過の把握に努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日、業務日誌を記録に残し、出勤時には業務日誌を確認し、現状の把握に努めている。また、毎日申し送りを行っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人の状態に変化があった際には、家族とも話し合いを持ち介護計画に反映するよう努めている。	本人・家族の思いや要望をアセスメントと記録をもとに検討し介護計画を作成している。モニタリングやカンファレンスでは全員で意見交換をしている。今年度脳梗塞の事例を通してチームケアの大切さを学んだ。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子や対応した内容等、毎日パソコン内へ入力し、記録を残している。出勤時には、必ず記録を確認し職員間で情報を共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人の状態により、その時々に必要なサービスを提供できるように職員間で話し合い、対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	買い物では、地域資源を利用できるよう支援している。家族の協力のもと、通いなれた美容院を利用している方もいる。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医に定期的を受診し、状態を報告して関係を築いている。また、今年度には、かかりつけ医の協力のもと、看取りまで行えた。かかりつけ医以外を希望される方は、家族に受診の付き添いをお願いしている。	かかりつけ医には定期的に職員と一緒に受診をしている。家族・職員・入居者・医療関係4者の連携が取れ、情報共有ができているため、緊急時には早期に対応できている。24時間対応可能な体制が整っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎日の全体申し送り時に、入居者の様子を伝えている。急変時には、併設の特養看護師の協力があり、対応して頂ける。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	早期に退院できる様、状態把握の為、面会に出掛けたり、連携室相談員や家族と連絡を取り合っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に、重度化指針について説明し同意を得ている。重度化や終末期には、家族と話し合いをし、意向に添えるよう努めている。	入居時に文章で提示し説明・同意を得ている。状態の変化に伴い、家族と話し合いお互いの理解と協力のもとに行っている。最善の方法は何か、といつもチーム全体で考えながら作り対応をしている。今年度一名の看取りを行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	施設内にAEDが設置してあり、消防署の協力のもと、AEDの使用方法を確認し、実践力を身につけている。また、食堂には吸引器が置いてあり、万が一の場合はすぐに使用できるようになっている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	毎月、防災訓練があり、初期消火の訓練や地震時の避難訓練、夜間想定火災避難訓練を繰り返し行っている。また、地域の防災訓練では、要援護者の受け入れ訓練を行っている。	訓練はスモークマシンを使用したり災害図面上訓練を行ったり、具体的に実施している。避難誘導は状況変化によって施設全体で見直しを行い、地域防災にも協力している。AED・防犯訓練も計画的に実施している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	本人の分かる言葉で声掛けを行っている。トイレの声掛け時には、他者に聞こえない様に配慮している。毎日の出退勤時には、入居者一人ひとりに挨拶を行い、毎日入居者にはできるだけ多く感謝の言葉を伝えるようにしている。	職員全員が出退社時には必ず入居者一人づつに挨拶や感謝の言葉を伝えている。入所者の嫌なことは態度や言葉等で発しないよう職員に浸透している。相手の立場に立ち戻り人格を尊重するよう対処している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	おやつ時には、本人の希望を伺い、選択して頂いている。また、誕生日には、してほしいことや食べたい物を聞き出している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本方針に「個別性」と掲げている。入居者の希望にできる限り添えるように支援をしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎日、ペンダントや腕時計が身につけられるよう支援している。外出時、化粧をされる方には、早めに声を掛け、配慮をしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	毎日、入居者と一緒に調理をし、昼食時1品作っている。昼食時には、入居者と職員と一緒に食べて食事をしている。ご飯と味噌汁を盛り付けることや食器の片づけは、本人の状態に合わせて支援をしている。	一緒に買い物に行き相談しながら献立を決め、調理・盛り付け・片付けは力量に合わせ支援をしている。入居者のペースを尊重し食事を楽しむ雰囲気づくりに努めている。入居時に嗜好調査を行い反映している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日、食事量と水分量を記録へ残している。食事を残す方には、野菜ジュース等で補っている。むせ込みのある入居者には、トロミ材を使用している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	就寝前に口腔ケアを行っている。義歯の方は每晚預かり、消毒を行っている。希望がある時には、近所の歯医者へ歯科往診をお願いしている。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排尿・排便の記録を行い、排泄パターンを把握するよう努めている。トイレの場所が分からない方の為に、トイレに目立つ目印をつけて分かりやすく工夫している。	身体状態や排泄パターン生活習慣を大切にしたい排泄支援に努めている。おむつやパットも本人にあったものを検討している。トイレと認識できるように目印を付けトイレで排泄できる工夫をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎朝、ヤクルトとバナナを提供している。時折、体操を行ったり、必要に応じて、下剤の服用をしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴の嫌いな方には、無理強いくことなく本人が入る気分になるよう電話で話をしながら気分よく入浴できるよう支援している。	入浴拒否をする人には本人の特性・性格を踏まえ、例えば電話を使って会話をすることで気持ちよく入れる工夫をしている。習慣や使用物品等個別性を尊重し好みに応じた入浴が楽しめる支援を心掛けている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	天気の良い日には布団干しを行い、シーツ類は洗濯を行っている。入居者の中には、ラジオを聴きながら寝る方もいる為、個々に気持ちよく寝られるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員がいつでも閲覧できるように、処方箋一覧表をファイリングし、把握できるようにしている。服薬介助時には、マニュアルに従って行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	本人の出来ることは出来るだけ行って頂けるように努め、繰り返し行うことで役割につなげ、張り合いを持っていただけるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	地域の行事に参加したり、買い物を通して外出できるように努めている。	受診時を利用して外食を職員と楽しむなど個人的に対応をしている。また地域の行事に参加をしたり、買い物等外出援助を行なっている。近隣には大きなスーパーや喫茶店が多く点在しており、希望や好みに合わせ職員と共に楽しんでいる。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的にお金の持ち込みはご遠慮して頂いている為、お金を所持している方はいない。買い物や外出時には、購入したい物がある場合は立て替えて購入して頂いている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	現在、入居者の希望がなく、電話も手紙のやり取りも行っていない。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	天井が高くなっており、広い空間づくりになっている。照明や天窓があり、明るい照明になっている。玄関入り口では入居者同士が過ごせるようになっている。	天井が高く窓から光が差し込み明るくゆったりとした空間に、入居者の作品や物がさりげなく置かれ居心地の良い環境が整えられている。可動式の大きな畳を廃止し、ソファや椅子を置くことで、皆がお茶を楽しめる空間を考えている。	車椅子の入居者が増えており、入居者にとってより安心・安全・楽しく暮らせるように、個人の身体状態や生活状況に伴う環境になることを期待します。
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食堂の席は、気の合った人同士が近くなれるように配慮している。また、玄関入り口のベンチでは一人で過ごせたり、気の合った人同士で過ごせるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使用していた家具を持ち込んだり、カーペットを敷いたりして、本人が安心して生活できるようにしている。	天気の良い日・悪い日で照明が工夫されたり、入居者の状態によって変化させている。本人と相談しながら神棚・ひ孫や亡くなった夫の写真・花を置くなど、環境を整え居心地よく生活ができるようにしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	食堂の可動畳をなくし、スペースを広くし、入居者が安全に行動できるように配慮している。トイレや食堂の椅子にはわかりやすいように目印や名前を付けている。		